

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870102142		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館 水戸		
所在地	茨城県水戸市大塚町1612-14		
自己評価作成日	平成22年09月08日	評価結果市町村受理日	平成23年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0870102142&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町千束4637-2
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に1人1人の利用者様に合った介助を実施しています。利用者様、ご家族様からのご要望、ご意見を聞き、出来るだけ添えられる様、即実行しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、住宅地域の一角に佇み近隣住民とのコミュニケーションもとりやすい環境下にあった。地域住民との交流も近隣のボランティアさんが参画してくださっている事から野菜作り、秋刀魚のバーベキュー等も実施され少しずつ近隣住民との交流も構築されているようであった。また、精神的・肉体的に旅行などが出来にくい入居者に対し、毎年ブロック毎に宿泊の旅行を実施するなど他社ではなかなか出来ない取組みもされていた。また、法人全体で男性職員などの教育に尽力され、外部講師なども多数お願いし職員の研鑽に寄与されているようであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にしている。『グループホーム』という施設を理解して頂けるように、理念を常に見える所へ掲示し、実践している。	法人の理念が作成され玄関ホール等に掲示されており、職員・家族などにも周知されていた。また、ホームの目標なども作成されていたが、全職員がその目標に向かって行動できるまでには至っていなかった。	職員と協働し、達成可能なそして入居者に必要不可欠な目標を作成され年間計画などとし、入居者の日常生活がより豊かになれるような取組みが今後期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会長、社会福祉協議会、近隣ボランティア等を通じ、地元の方々と交流を深めている。	地域のボランティア団体が定期的に訪問し、その時に応じ、畑仕事・秋刀魚のバーベキューなど行ってくれていた。また、ホームで開催するイベントは家族会も手伝いに訪れ、地域の方と交流ができていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの見学、相談を受け入れている。パンフレットを常備している。2ヶ月に1度、地域運営推進会議を行い、地域住民の方へ働きかける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者へのサービスの現状、取り組みの報告、また意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議の委員は地域の町内会長をはじめ市町村の職員が参加されていた。今後は会議を更に充実させるため自治会長に相談する予定。推進会議開催時に合わせ消防署が一緒に行う避難訓練なども行う予定があるようであった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者へ説明、パンフレットを渡している。保護担当者とは、連絡を取り合い、相談には応じて下さる。ボランティアを招き、サービスの質の向上に努めている。	市町村には適宜相談に出向くなどしている。また、地域の小・中学生の社会科見学・職場体験なども定期的に受入っているためその報告等でも情報の交換が行なわれていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員(介護保険法指定基準における禁止の対象における具体的な行為)を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては、法人全体での研修を実施し職員全体で拘束廃止に取り組んでいる様であった。ホームでの日常生活場面では「言葉の拘束」がありがちであるので特に注意しながら生活の支援がされていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、情報番組等での情報の理解を深め、虐待が見過ごされることがないように常に注意し、防止に努める。申し送りやケース記録をよく活用し、小さい事も見逃さないようにしている。		

茨城県 グループホーム いっしん館水戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング等活用し、学ぶ機会を持ち、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時は十分に説明を行い、ご家族様に納得して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は常時受け付けている。要望があった際は即実行している。苦情が発生した際は十分説明し、納得して頂けるよう努めます。	ご意見箱は1階2階に設置されているが苦情は殆ど入らない状況であった。家族訪問を活用し些細な言葉でも聞き逃さないようにされていた。また今後いっしん水戸第1エリアで合同のアンケート調査をする予定があるとの事であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフミーティングを開催、意見、提案を聞く機会を設けている。利用者の受入れ、継続の可否等はスタッフの意見を取り入れながら取り組んでいる。	職員の意見は定期的開催されるスタッフミーティングにおいて意見交換されていた。それらを基にエリアマネージャー等とおして上司と相談されていた。職員の意見は比較的反映されているようであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『明るく楽しく』をモットーに仕事を行っている。勤務上ローテーションを組んでいる。多様な研修に参加し、やりがい、向上心を見い出せるよう、3ヶ月に1度社内研修をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1度、外部より講師を招き、社内研修を行っている。全スタッフが内容を理解し、外部の研修にも参加。また、管理者はスキルアップ研修にも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を介し、意見交換等をして、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気楽に相談できるよう1対1で相談出きる時間を作っている。話された内容はケース記録へ記入。アセスメント方式によって利用者の現状、希望を把握し個別支援計画を作成する。意思疎通が困難な方等にはバリデーションを活用している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各ユニット出入り口にご意見箱を設置し、気軽に意見を出して頂けるようになっている。こまめな電話連絡を行っている。契約時、ご家族と十分に話した上で意見を頂き、ケアプランを作成し、説明する。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに合っているかを見極め、他のサービスが適していると感じた時は、ご家族と相談し、支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフは『利用者様は人生の先輩』として意識し、尊敬を持って接している。衣食を共にし、利用者の方の得意分野を活かし、生きがい作りを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、一泊旅行への参加を支援していく。何かあれば、ご家族へ報告、連絡、相談をしている。毎月、写真付きでお便りを出している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所へお連れしたり、馴染みの人へ会いに行ったりと出来るだけ、ご本人の希望にそえる様にしている。	お話ができる方はその方の思いを叶えるため家族と相談しながら馴染みの関係が継続できるように支援されていた。入居者によって、自宅に帰ってみる、法事に参加するなど実施されていた。		新規入居に関しては体験住居も試みられていた。今後は更に他施設・病院からの入居者に対しても自宅を訪問し、その方が日常生活を送っていた環境を把握する事により、その方の馴染みの物・馴染みの環境を把握しケアの個別性への配慮が期待される
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、挨拶等されながらお互い気遣い、助け合いながら生活している。また、上手くコミュニケーションがとれる様、スタッフは注意し、心掛けている。			

茨城県 グループホーム いっしん館水戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当社は、グループホーム、有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅の三本柱になっており、都合により退去になってしまった後も、相談に応じ、状況に合わせ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話を傾聴、本人の希望を見い出し、把握している。意思表示が少ない方、難しい方は、表情等を見て判断している。こまめな様子を常に観察している。	日常生活の中で衣類を選ぶ場面や、入浴の時間帯を選択するなど本人の意向を少しでも叶えるような場面の提供が出来ていた。また、言葉で表現できない方に対しては、些細な表情を読み取ったりしながら支援されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず面接を行い、その方の生活歴や、これまでのサービスの利用状況を把握し、全スタッフがより良い環境に出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送りノートで随時活用している。一人一人に合った生活をして頂いている。急な状況の変化等あった時、必要に応じて緊急ミーティングを開いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意見を取り入れ、より良い生活が出来るようにしている。必要時、医師、看護師等に相談。月1回のモニタリング、アセスメントを全スタッフでカンファレンスし、介護計画作成、見直し、検討している。	介護計画書は、定期的に、また状態の変化が会った時に随時更新されているようであった。作成にあたっては、職員と協働し作成されているようであった。	介護計画書は具体性にやや希薄さが感じられた。介護計画書の作成にあたっては、その方の「今」が垣間見られる計画書である事が望ましいと思われる。またその目標は具体的で達成可能な表現を用い、その方の些細な言動などに着目して作成して頂く事を期待する。更にはその目標に添って日常の記録も記載される事が望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子を常にケース記録へ記入。申し送りノートも活用している。朝礼、夕礼を行い、状況を報告している。スタッフミーティング時には話し合った内容をファイルにまとめ、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当社は、グループホーム、有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅の三本柱で行い、ご本人、ご家族の希望に応じた対応を行っている。また、連携病院に相談し、連携をとっている。		

茨城県 グループホーム いっしん館水戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、警察、消防、文化、教育機関の協力を得て、連携を図り、利用者の生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず、ご本人、ご家族の希望を確認した上で受診している。必要時は他医療機関の紹介を受けている。	基本的には入居者家族・本人の意向を確認し馴染みの医療機関への通院が可能な対応ができていた。その他定期的に訪問する内科・精神科・眼科等の受診も出来るような仕組みが整っていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昼夜問わず、連絡できる状況になっており、常に適切な対応が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、担当医師、看護師より状況説明を受け、早期退院に向け、医療機関と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族には重度化、終末期の時の意向を伺っており、話し合いによっては転居されるケースもある。スタッフも周知し、医師と話し合っている。終末期マニュアルがある。	過去には終末期に向けた対応に積極的に対応していたが、ターミナル期の利用者を一度に3名対応したことから職員の負担が多すぎること、24時間対応できる訪問の医師が確保出来ない事から現在は家族の同意の基、医療機関への紹介、法人内の施設への移動などの対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは、救命救急講習を定期的に通講している。応急処置のマニュアルや薬箱等を常備し、応急手当が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、年2回実施している。日中、夜間を想定した訓練を実施し、非常食も保管している。	法人内での避難訓練も実施しているが、年に1回は消防署と共同し避難訓練を行っている。夜間想定訓練も行っている。今後は地域包括支援センターと相談しながら地域の防災マップなども検討されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬いし、かつ一人一人に合った対応、声掛けを行っている。	日常生活場面においては、排泄・入浴・食事の食べこぼしなどさりげなく支援されていた。時間で排尿誘導を行う方には安心できるような「個人ボード」を作成し本人の手元に置くなどされていた。	今後は、個人情報保護法にも目を向けていただき入居者の個人情報が確実に保護されるような「写真掲載の同意」「個人情報が他者の目に届かないような工夫」など試みていただける事を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人の話や意見を傾聴し、信頼関係を築くと共に、個人の意見を尊重し、決定権を利用者本人にと努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、トイレの時間を決めず、その人に合わせたペースを大切に、希望に添い、対応している。また、季節の行事、個別のレクリエーション等取り入れ、希望に添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを表現出来るよう日常衣類を本人の意向で選んでいる。衣類購入の際は一緒に買物に行き好みの物を選んで頂いている。また弊社移動理容室によりパーマ、毛染め等のお洒落が出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立を作成し、利用者の好みの献立を取り入れ、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。また、食事を楽しめるよう、外食等も取り入れている。	献立は、基本的に職員が作成するが出来るだけ入居者の嗜好が反映されるようさりげなく食べたい物など聞く工夫もされていた。また、買い物も入居者と共に出かける・収穫された物を食卓に出すなど季節感のある食事作りがされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人に合った食べる量、水分量に合わせて提供し、1日の食事量や水分量等チェック表に記入し、いつでも確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に応じた口腔ケア、方法を行って頂き、必要に応じて介助を行い、清潔保持に努めている。また、義歯や口腔内に異常があった際は、月2回歯科往診の際相談、診察を受けている。		

茨城県 グループホーム いっしん館水戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その人に合ったトイレ誘導、排泄介助が出来るように支援している。	排泄のリズムは入居者個々に違いがありその方の排泄のリズムを職員が協働し推し測る努力がされていた。実際に紙おむつからパット等に移行できている入居者も多くみられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事作り。毎日乳製品を提供している。適度な運動、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。また、状態に応じ医師に相談し、下剤による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を重視し、好きな時間に入浴出来るようにし、その人に合った温度にし、快適に入浴して頂いている。	入浴は、できるだけ時間の制約を解き入居者のリズムに合わせて入浴できるよう支援されていた。入浴を拒否する方には、職員を変えてアプローチする、時間を変えて誘ってみるなど試みられていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理、寝具干しで清潔を保ち安眠できる環境を整えている。ソファ、座椅子等で休息出来る様整備している。適度な運動を取り入れ夜眠れるようにしている。状況によって医師の指示の基睡眠導入剤を使用する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容について理解し、指示通り服薬介助が出来る様にしている。また、薬の変更があった際、十分に申し送りをし、全スタッフが把握している。また、経過観察を行い、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、畑作り等利用者がそれぞれ得意な事、出来る事を把握し、張り合いのある生活が出来る様支援している。レクリエーションや季節の行事等楽しみを多く作っている。嗜好品については身体状況を加味しながら楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせ、散歩や買物へ外出している。また、本人の希望に合わせ、ご家族との外出の連絡を行う。	日常的には、近隣の散歩が主な日課である。その他毎日のように行われる食品の買い物への同行なども行っている。また、趣味で近隣の絵画教室に通っていた方もおられ同行していた。	

茨城県 グループホーム いっしん館水戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力量に応じ、ご家族と相談の上、自分で金銭の所持をされる時もある。また、一緒に買物に行った際、一緒にお金を渡し、お釣りを受け取るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用したい時にすぐに使用できるようホールに置き、手紙も本人に渡し、やり取りのし易いようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の花を飾ったり、装飾する事で季節感を出している。レースカーテン、簾で日差しの調節を行い、常に換気にも気を付けている。共用の空間は常に清潔に心掛けている。	共有空間は広々とした空間に、車椅子で利用できる炬燵・のんびり昼寝ができる畳スペース・ホールの中間に置かれたソファなど創意工夫され居心地の良い空間作りがされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、和室に座卓や座椅子を置き、思い思いにくつろいで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、装飾品を持ち込んでもらい、本人にとって居心地の良い空間作りをしている。	居室には、入居者本人が使用していたとみられる小引き出しや小さな仏壇なども持ち込まれている方もおり、過ごし易い空間になっていた。今後は自宅を訪問し、より馴染みの品物も揃う可能性があるようであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており全体に手すりが付いている。滑りやすい階段には滑り止めを付け清潔感に心掛けアクシデントの原因となるものは置かない。居室の入り口には一目で解るように写真や名前を付け浴室やトイレも解り易く表示している。		

目標達成計画

作成日: 平成 23 年 7月 27日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	○職員を育てる取り組み 新人職員や、異動の為、他施設より配属された職員の指導、教育の徹底。	毎月のミーティング内での学習会の実施。 社内研修の実施。 外部研修への参加、研修等の情報提供。	スタッフミーティングでの学習会は担当者を持ち回りとし題材について学習を進める。 社内研修は3ヶ月ごと年に4回を予定し実施している。 外部研修にも積極的に参加するよう情報の提供を行う。	6ヶ月
2	35	○災害対策 東関東大震災の教訓を活かし災害時に利用者が安全に避難出来る方法を職員全員が身につける。	災害時における職員の迅速な対応ができる。災害時の安全の確保と地域との協力体制の強化。	避難訓練の強化。 非常食、備品の買い置き。 災害時における職員の配置。 地域との協力体制の構築。	6ヶ月
3	47	○服薬支援 服薬援助において、飲み忘れや内服薬の間違い等のアクシデントが起きている。	全スタッフが薬の内容を理解し、指示どおり服薬して頂く事が出来る。	薬の管理、「おくすり個人ボックス」の活用にて飲み忘れや間違いが防げる。	6ヶ月
4					6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。